

## オープンスペースの学校づくり

理事 福島県三春町前教育長 武藤義男

1980年から昨年までの10年間、福島県三春町の教育改革にたずさわった。

当町の教育改革の根本理念は、昨今の学校教育が効率主義と画一主義によって失ってきた人間教育の回復を図ることにあった。

町教育委員会は教育改革の柱として次の実践目標を設定した。すなわち、

① 新しい教育観の確立と教育内容、方法の改革

② 新しい教育を支える施設・設備の改革

③ 地域住民の教育参加 の三つである。

これを受け、学校教育における改革の中心課題を「画一教育の克服と個性教育の回復」におき、そのための体制を整え、施策を進めてきた。

まず、理論的な研究と実践的検証を進めるために、町単独で指導主事を置いた。ついで学校現場の教師20名による「三春町学校教育研究員制度」を発足させ、同時に校長会の月例勉強会「学校経営研究会」を開き各校内研究との連携を図った。さらに1986年にアメリカ、ウィスコンシン州から教師を招き、州との教育交流を図り、教育改革に役立たせた。また、隔月刊の広報紙「三春の教育」を全戸に配布し、教育改革への理解と参加を呼びかけた。

これらの組織的活動の共通の主題は先に述べた「画一教育の克服と個性教育の回復」につきる。

さて、この研究を推進する一方で、われわれは町内小・中学校10校のうち5校の新改築と2校の大規模改築事業に当面していた。

建築専門家によるプロジェクトチーム「三春町学校建築研究会」を組織し、その基本理念を「学校教育の今日的課題と小中学校建築のあり方について」(1983)にまとめ当研究会に提示し、それを基本において、教育施設・設備の検討を進めた。この検討の過程には教職員、地域住民、役場担当課、教育委員会が参画した。そして、3年にわたる討論と学校における教育実践研究を重ねるなかで、従来型の教室像から脱皮して、学習空間、生

活空間、遊び空間などをふくむ学校空間全体の大膽な見直しを図ることになった。

こうして、目標とする新しい教育に向かって機能する学校像が次第に明らかになっていった。

これらの討論と実践的研究の過程は、加えてわれわれに教育観の変革を促す極めて根源的な意味をもっていた。

このような経過の後に、まず1985年に産声をあげたのが町立岩江小学校である。県内初のオープンスペーススクールで、初めてオープンスペースが国の補助対象面積になったのもこの年である。

岩江小学校の子どもたちと教職員にとってオープンスペースは、だれもが、いちどもそこで体験したことのない学校空間であった。しかし、新しい校舎に移った日から戸惑いはなかった。それどころか、校長のリーダーシップのもとに、心をはずませて新しい教育実践と研究に引き続き取り組み実績を積んでいった。気づいてみたら、教師にありがちな学級王国意識は全く消えて、いたるところでチームティーチングが展開するようになっていた。いま、子どもたちは全学年、全くチャイムのならない90分単位の学習に熱心に取り組んでいる。

三春町では更に1990年に小学校1校、91年に中学校1校、以降年次計画で中学校2校の教科教室型オープンスペーススクールが建設される。このほかに、大規模改築によってすでにオープン化した小・中学校が1校ずつある。

今、全国でオープンスクールの建設が進められている。そこで気がかりなことがある。それは、市町村が建てた校舎を教育委員会を経て学校に引き渡され、そこで初めて学校がその利用の仕方を研究するというパターンである。教育改革の基本理念とそれを進める手立てが明確にされ研究と実践が目的意識的に進められないままに、オープンスペースの校舎建築が先行してしまうとせっかくの教育改革の機能が作動しなくなってしまうのである。このことを特に強調したい。

# 研究発表会参観報告

——個性化教育の実践を見て——

本年度も全国の各地で、個性化教育を積極的に進めている学校の研究発表会が数多く開かれた。どの学校もそれぞれ独自の取り組みを積み重ねており、参観者にはたいへん参考になった。ここでは、その中から3校について紹介する。

## 児童主体のコンピュータ活用の試み

——東京都目黒区立宮前小学校——

宮前小学校は、昨年度に引き続き「自ら学ぶ児童の育成をめざして」をテーマに、10月26日公開研究発表会を行った。昨年度の発表では、「のびっこ」学習・総合学習・週間プログラム学習という3つの異なる学習を公開し、「児童が意欲的に取り組む学習活動」を探ったが、今回の発表では、「コンピュータ活用を通して」というサブテーマで、中学年の週間プログラム学習が公開された。



〈3年社会の学習環境〉

3年生の社会では、資料活用能力を伸ばすために、パソコンで資料とその見方を示していた。算数では、長さの学習で、課題を与えたり確かめるために活用させたりしていた。4年の国語では、方言の学習で、好きな地方の方言を調べた子供が方言を使ってパソコンと会話ができるようになっていた。算数では、自分で考えた立方体の展開図が正しいかどうかを確かめると、直方体の見取

り図のかき方を練習するために活用させていた。

コンピュータ活用の公開学習といつても、コンピュータがずっと並んでいるわけではなく、各学年数台ずつのコンピュータが、他の豊富な学習材とともに、使いやすいうようにオープンスペースに置かれていた。子供たちは、自分の学習計画の中で、必要に応じてコンピュータを使いこなしていた。

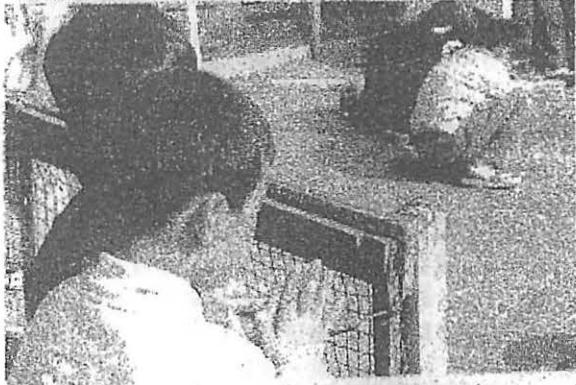
岐阜大学の後藤忠彦先生の講演もわかりやすく具体的な話で、たいへん参考になった。

## 基礎・基本の重視と個性化教育の推進

——長野県長野市下氷鉋小学校——

11月17日、長野の下氷鉋（しもひがの）小学校の研究発表会が行われた。調和のとれた教育課程の編成をめざし、学習の六態様（はげみ学習、教科学習、合科的・総合的学習、集団活動、オープンタイム、朝の活動）を考え方、指導の個別化と学習の個性化が図られてきたが、この研究第6年次に当たる今年度は、「基礎・基本の重視と個性化教育の推進」に視点をあて、指導の個別化・学習の個性化についての吟味をし直したということである。

朝の活動やはげみ学習のほかに、全21学級の公開授業があり、それぞれの指導案と一人一人の子



〈生活科の公開学習〉

供にふれた資料は、参考者にとってありがたいものであった。個別学習での子供たちの動きや、一斉学習での子供の発言から、この学校で取り組み重ねてきた実践が、子供たちに確かな力をつけたことがわかる。

オープンスペースを持たない普通教室の校舎であるが、発想はオープンであり、2つある体育館や廊下などのスペースをうまく活用していた。

研究協議の提案の中では、一人の子供を長期に渡って追った記録なども発表され、たいへん興味深かった。

講演会では、加藤幸次先生が研究協議の内容を受けて、「指導の個別化と学習の個性化」についての基本的な考え方を話された。

### 個性と創造力を育てる学習 ——岐阜県池田町池田小学校——

11月30日。この日は、この時期にしてはめずらしい台風の接近で、激しい風雨にみまわれたが、それにもかかわらず全国から多数の参観者が訪れていた。

発表は全体会から始まり、「いすみ学習」、生活科・課題別学習・習熟度別学習の公開授業へと進んだ。

「いすみ学習」は学習の個性化を意図した取り組みで、3年生以上で行われていた。多目的ホールで手芸をしたり、図工室で木工をしたりしているほか、楽器調べ・絵本作り・パソコンでのゲーム作り・旅行の企画・熱気球・「紙はかせになろう」(3年生)など、様々なテーマで生き生きと学習していた。

公開授業も、児童一人ひとりが自分で課題を持ち進んで学習に取り組んでいた。1年生の「やってみよううちのしごと」、2年生の「おやつを作ろう」は、どちらも本時の様々な活動にいたるまでの子どもたちの思いが伝わってくるようで、ほほえましかった。

3年生はわり算のひっ算を習熟度別に学習していた。児童は自分でコースを選び、パソコンなどの学習材を使って熱心に学習していた。

4年生以上は課題別学習だった。

4年生は「もののとけかたのひみつをさくろう」、5年生は「岐阜提灯の紙絵作りについて調べよう」、6年生は「戦争と国民生活」についてだったが、どの学年も豊富な学習材が用意され、児童たちはこれらの学習材をよく活用して真剣に学習していた。

パソコンの導入においても、パソコン通信やデータ処理をはじめとして多様な活用を実践しており興味深かった。

また、幼稚園では「落ち葉や木の実などを使って遊ぼう」という総合学習が行われていた。生活科と関連があり、幼小が連携して実践してきた様子がうかがわれた。



〈生活科の公開学習〉

分科会は「生活科の学習」「パソコンの教育利用」「学習環境の活用」に分かれて行われ、どの分科会も熱気に満ちた話し合いが繰り広げられた。

午後は、「教育におけるハイテクとハイタッチ」という演題でお茶の水女子大学教授の森隆夫先生の講演があった。生活科は、

- ・学習方法の初任者訓練である。
- ・知識を教えるのではない。
- ・問題発見的学習である。
- ・無意識的予習である。

など、生活科のことを中心にわかりやすく内容の濃い話を聞くことができた。

全校博物館化された池田小学校の研究発表会は学習環境においてもカリキュラムにおいても大変参考になり、有意義な一日だった。

## 第12回学期研究会

一箱 根一

平成2年12月25日～26日

2学期が終わりほっとしたところの12月25日夕方、北は青森から南は佐賀まで、全国から21名の熱心な先生方が温泉の町箱根に集まりました。

1日目の学習会は、夕方の5時から始まり、夕食をはさんで10時過ぎまで続きました。

私たちが今まで考え、実践してきた個性化教育を原点から見直し、討論しながら整理していきました。「個性」そのもののとらえ方から、個性化教育の基本的な考え方、個性化教育を取り巻く様々な要素についてなど、一つ一つが重要なことばかりで、学習会の終了後も、熱のこもった議論が続いていたようです。

2日目も、朝食後9時から学習会を始め、昼の予定時刻いっぱいまで、意見を交換し合いました。

この話し合いを基礎にして、「個性化教育実践ハンドブック」(仮題)という形にまとめあげていきたいと思っています。

2日間の日程終了後は、親睦を深めるために、会場を神奈川の大磯小学校に移し、1日遅れの「クリスマスの集い」を行いました。昨年8月のアメリカ、オープンスクールツアーハの話も出て、楽しいひとときを過ごしました。



## 事務局だより

現在、事務局を中心に「個性化教育実践ハンドブック」(仮題)出版の準備を進めています。9月ごろの発刊をめざし、原稿に取りかかるところですが、会員の皆様にぜひ執筆に加わっていただきたいと考えています。

この本が、これから個性化教育を推進しようとする学校や先生方の手がかりになればと思います。

平成3年度の夏季研修会は、東京で開催する予定です。昨年度の名古屋、本年度の福岡では、各地区の個性化教育研究会の方々にたいへんお世話になりました。次回もぜひ成功させようと、事務局でもはりきっています。要項ができ次第、会員の皆様にお知らせします

事務局会に参加していただける方を募集しています。2か月に1回程度、四ツ谷の上智大学で、事務局会があります。一度、顔を出されてみてはいかがですか。くわしいことは、下記までお問い合わせください。

本年度の会費(個人3000円、団体5000円)

未納の方は、至急納入願います。

口座番号東京0-194394

加入者名 全国個性化教育研究連盟

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉

〒114 東京都北区赤羽南1-16-2-504

庶務部長 佐久間茂和

☎ 03-3903-4780

全国個性化教育研究連盟会報 第17号

平成3年3月10日発行

編集責任者 事務局長 高浦勝義

編集 広報部長 望月桂二